

IV-240 音楽様式のアナロジーによるシーケンス景観の記述

大和証券 正 員 北村 幸次
京都大学工学部 正 員 川崎 雅史
京都大学工学部 正 員 佐佐木 綱

1. はじめに

本研究は、シーケンス景観と音楽とのアナロジー、すなわち景観を音楽の様式的に解釈し、その記述方法の検討を行うことを目的とする。景観と音楽の2つの共通点は、①瞬時に変遷する連続体 ②時間軸断面上における要素の構成体 である。ヤン・ラルー・大宮¹⁾は、楽曲全体の様相を把握する新しい方法論として総合様式分析を提案した。分析手法としての切口よりも包括的で汎用性のある方法を展開している点で評価され、以下この考え方を基礎として景観記述に適用した。

2. 音楽の総合様式分析の考え方

総合様式分析の基本的視点は、音楽を次の5視点から観察しその活動状態を検討することにある。

- ①サウンド：音色、音の強弱、音色の同時的な配置の組合せ
- ②ハーモニー：音の垂直的結合の連続に関連した現象のすべて
- ③メロディー：音楽の中での旋律的現象のすべて
- ④リズム：知覚される音の長さの連続体
- ⑤グロウス・プロセス：上記4つの異なる観察結果を組み立てる総合的段階

3. シーケンス景観とのアナロジー

景観の要素と構成に関して、音楽様式とのアナロジーから次の視点を考慮した。

①サウンドの視点

要素に関する瞬時性の強い視点であるため、一連の景観の中でランドマーク的な働きをするマクロな要素に着目する。

②ハーモニーの視点

時間軸上での要素の並び方と続き方の視点であるため、時間断面の景観を図1に示すような面構成に関する8つのパターンを与え、その種類と進行を観察することにする。

③メロディーの視点

まとまりをもった要素の変化の観察であり、主題

となる段落をもとにそれに続く部分の継続の可能性として、以下の4つがありこれに従う。

- 1) 回帰：A Aの様な反復やA B Aの様な再帰の倍合がある
- 2) 変形：メロディーの変奏や展開が主である
- 3) 均衡：先行するフレーズと後のフレーズとの間の応答や対応の場合を意味する
- 4) 変化：前の様相に対して新しい様相が続く場合で相異、対照などの変化が生じる。全く新しい場合は、新楽想となる。

④リズムの視点

リズムは、知覚される要素の時間長さの連続のことであり、見えては消失してゆく要素の出現の型である。ここでは、途切れることのない連続的な要素（生け垣、フェンス等）、規則的な要素（植樹、街灯等）、不規則的な要素（電話ボックス、ベンチ等）の3つを考える。

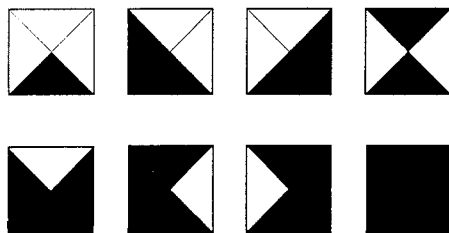


図1 ハーモニーの視点—面構成の型—

注意

- ・黒塗部分は、景観要素があることを示す
- ・枠内は、眼に映る範囲（視野）を示す

4. シーケンス景観の記述例

以上の考え方をもとに、実際の景観記述を行った。対象は、図2に示す京都市河原町今出川から百万遍までの約0.9Kmである。記述例の一部を図3に示し、グロウス・プロセスを表1に示した。これらから、次の諸点がわかる。

- ・メロディーにおいて、音楽と同様に多層的な回帰

がみられた。繰り返が多いことから認知しやすい景観である。

・リズム視点において、賀茂大橋直前で大きな変化があった。視界が開け、山と川のランドマーク要素が見られることから対象区間のクライマックス

部分である。
参考文献：1)ヤン・ラー・大宮眞琴「スバル・アナリス総合的様式分析」,音楽之友社,1988

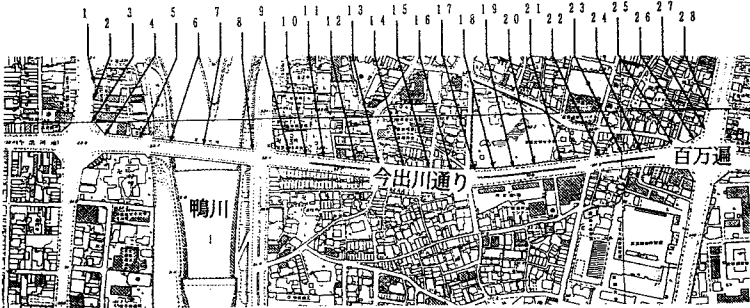


図2 対象街路

写真番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
SOUND サウンド					・ 山 ・ 川	・ 山 ・ 川	・ 山 ・ 川	・ 山		ハ 停				
HARMONY ハーモニー	■	→	■	■	■	→	→	→	■	→	→	→	→	→
小分割 MELODY メロディー	a	a		a	b	b	b	c	d	d				
大分割	反	復	均	衡	回	帰	反	復	反	復	均	衡		
	A				変形 B				回 帰				A	
RHYTHM リズム														
	*								*				*	

注意 ハーモニー・ → は前のものが続くことを示す。
メロディー・ a, bなどの記号が異なり変形と記していないものは変化を示す。
リズム・ 記号のないものは均衡を示し、記号が同じものは回帰または反復を示す。
リズム・ — は、連続的なものは、規則的なものは、不規則的なものを示す。

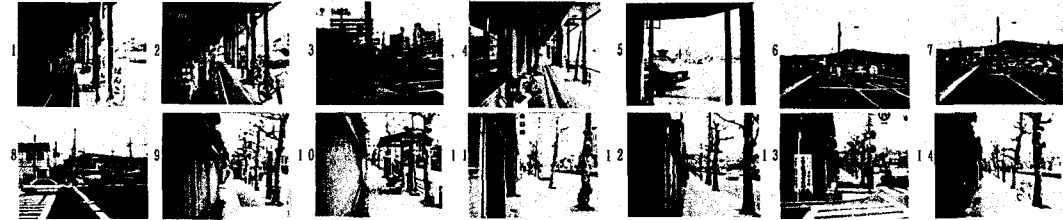


図3 シークエンス景観の記述例

表1 グロウス・プロセス

区間	評価
1-4	この流れの中では3のみ構成面での独自性がある。
4-7	4-5のすべての要素で急激な変化がある。5-7ではサウンド要素の特徴をもち、この区間がシークエンスのクライマックスである。
7-8	滑らかにクライマックスが過ぎる。
9-14	街路樹によるリズムの規則性は、歯切れのよいテンポで前進感を与える。